

1 基本方針

生徒の生きる力を育成し、豊かな学校生活を実現させる教育活動の一環として運動部活動を位置付け、スポーツに親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資する運営・指導に徹することにより、生徒の個性や能力の伸長を図る。

(1) 教育活動の一環としての位置付け

○ 運動部活動の意義

- ・運動部活動は、生徒がスポーツに親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養、互いに協力し合って友情を深めるといった好ましい人間関係の形成等に資するものである。

○ 生徒の生きる力を育成し、豊かな学校生活を実現させる役割

- ・運動部活動は、学校教育の一環として、教育課程との関連を図った指導を行うことにより、生徒に下記のような様々な効果をもたらし、生きる力の育成、豊かな学校生活を実現させる役割を担うものである。
 - ① スポーツの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育て、体力の向上や健康の増進につながる。
 - ② 自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成するとともに、自己の力の確認、努力による達成感、充実感をもたらす。
 - ③ 互いに競い、励まし、協力する中で友情を深めるとともに、学級や学年を離れて仲間や指導者と密接に触れ合うことにより、学級内とは異なる人間関係の形成につながる。

(2) 生徒が自立して取り組む力を育成するための指導の充実

○ 生徒の自主的、自発的な活動を促す指導

- ・運動部活動は、個々の生徒が興味・関心や適正等に基づき、中学校3年間を通して継続的に取り組もうとする運動種目を自らの意志で決定し、個性や能力の伸長を図るものである。
- ・指導に当たっては、技能や記録、集団における役割や仲間との人間関係づくり等の目標や課題を自ら設定し、その達成、解決に向けて、仲間と共に考え、判断して実践につなげるといった自立して取り組む力を、発達の段階に応じて育成する。

○ 効果的な運営・管理及び指導体制の充実

- ・運動部活動指導のための時間外勤務の縮減等、中学校における教員の負担感を軽減するための運営及び管理に関する活動基準を明確にし、指導業務のバランスを図ることで、個々の生徒の個性や能力の伸長を図り、発達の段階に応じて自立して取り組む力を育成するための指導の充実を図る。

- ・競技経験がない、あるいは指導経験の浅い教員が顧問となる部においても、専門的な技術指導が保障されるよう、地域の専門的な技術指導力を有する外部指導者の活用を含めた適切な指導体制を構築する。

(3) 地域の特色を生かした学校、家庭、地域の役割と必要に応じた連携

○ 指導目標及び方針の明確化

- ・校長は、生徒の自主的、自発的な参加により行われる運動部活動について、生徒の多様な運動部活動へのニーズや意見を把握し、中学校3年間を通して自立して取り組む力を育成できるよう、学校の教育目標の具現につながる指導目標及び方針を設定する。
- ・学校における運動部活動の指導目標及び方針の設定に当たっては、校長のリーダーシップのもと、学校組織全体で検討して作成する。また、日常の運営、指導においても、校長が適切な指示をし、顧問¹の教員等の間で意見交換、指導の内容や方法の研究、情報共有を図る。
- ・校長は、生徒に対して、各部内のみならず校内の各部のキャプテン等が横断的に活動の在り方等について意見や情報を交換するよう促す。また、活動を通して生徒の意見等を把握する中で、適宜、目標、計画等を見直す。
- ・顧問は、指導計画の作成に当たって、運動部活動と保健体育科や道徳科、特別活動等の教育課程内の指導との関連を図るよう配慮するとともに、生徒とも意見や情報を交換し共通理解を図る。また、運動部活動の中で見られる生徒のよさや努力の姿を多面的にとらえるなど生徒理解に努め、そのことを学級担任や他の教員と共有し、部活動以外の教育課程内での指導や日常の生徒指導に生かす。さらに、これらの活動を通して生徒の意見等を把握し、成果を検証していくPDC Aサイクルによって、適宜、目標、計画等を見直す。

○ 指導目標及び方針等の家庭・地域との共有

- ・校長は、生徒の自主的、自発的な活動の場の充実に向けて、運動部活動、保護者等が運営するクラブの役割を明確にし、必要に応じて連携を図りながら、学校や地域の実態に応じて特色ある運動部活動に取り組む。
- ・校長は、各部に所属する生徒全員の保護者で構成する保護者会（以下、「保護者会」という。）を組織し、PTA総会や保護者会、また、地域の関係者に対して、学校の指導目標及び方針、各部の活動目標及び方針、計画等を丁寧に説明し、理解を得る。
- ・顧問は、中学校3年間や各学年等での指導（活動）内容とそのねらい、指導（練習）方法、活動の期間や時間等を明確にした計画を作成し、入部の際や保護者会等で生徒や保護者に説明し、理解を得る。
- ・運動部活動において、勝利を目指すこと、今以上の技能の水準や記録に挑戦することは必要なことであるが、大会等で勝つことのみを重視し過重な練習を強いることがないよう、競技力の向上や選手の育成・強化については、本指針に留意しつつ、スポーツ関係団体との情報交換や連携を図る。

1 顧問 : 当該校において、その運動部活動を担当する教職員及び学校教育法施行規則第78条の2に該当する部活動指導員

2 運 営

運動部活動が生徒の自主的、自発的な参加によるものであることを踏まえ、生徒の多様な運動部活動へのニーズや意見を把握し、生徒の主体性を尊重して、参加の効果を一層高めるための運営を行う。

(1) 学校の地域性や特色を生かした部の設置

○ 学校に設置する運動部数

- ・校長は、各運動部において複数顧問体制による運営が可能となる部数を設置する。
ただし、男女別に共通の種目を設置する場合に、各顧問1名の他、別の顧問1名が男子部、女子部を兼任するなど、設置する運動種目に応じて弾力的に運営する。

○ 設置する運動種目の選定

- ・校長は、生徒のニーズや意見を把握するとともに、保護者の意見や他のクラブ等の設置状況を考慮し、特色を生かした運動部活動となるよう運動種目を選定する。

(2) 複数顧問体制による運営

○ 事故等の未然防止と不測の事態への対応

- ・各運動部には、生徒のけがや事故を未然に防止し、安全な運動部活動を実現するとともに、不測の事態が発生した場合に適切な対応ができるよう、複数の顧問を置く。
- ・各運動部の活動時に、顧問が1人で指導に当たる場合には、地域の専門的な技術指導力を有する指導者（以下、「外部指導者²」という。）や同一場所で活動する他の顧問と連携、協力して指導に当たる。

○ 効果的な指導の充実

- ・生徒の意欲や自主的・自発的な活動を促し、参加の効果を一層高めるために、各運動部の顧問間で指導内容や方法等について十分な共通理解を図り、一貫した指導に努める。

(3) 複数校合同部活動の促進

○ 複数校合同部活動の設置基準

- ・単一校において、希望する生徒はいるが部を設置していない、部は設置しているが部員数が少なく十分な活動ができない、また、専門的な指導ができる顧問がいないなどの運営上の問題がある場合に、近隣校と連携・協力し、複数校合同（同一市町村内において、校数を問わず運動部を合同設置する拠点校方式を含む。）で部活動を設置し、行うことができるようにする。

2 外部指導者 : 当該校の教職員・部活動指導員以外で、その運動部活動の支援をするために、市町村及び学校で委嘱している指導者

<複数校合同部活動を行う場合の要件>

- ① 希望する中学校に、それぞれ部を設置し、顧問を置いている。
- ② 中学校、生徒、保護者共に希望している。
- ③ 顧問または保護者の引率により、安全に移動ができる。
- ④ 関係校の校長が、互いに承認している。
- ⑤ 関係校間で、指導目標及び方針、指導計画等の調整を行い、共通理解を図る。

○ 複数校合同部活動の運営上の留意点

- ・複数校合同部活動は、希望する運動種目をやりたいという生徒の願いに応えるための措置であり、競技力の高い生徒を集め強いチームを編成するといった勝利至上主義を目的とするものではないことに十分留意する。
- ・複数校合同部活動を実施する際には、活動中の事故防止とともに、移動中の事故防止についても十分注意する。
- ・複数校が合同で構成したチームの大会参加については、出場する大会要項等の規定に従う。

(4) 活動時間をバランスよく確保するための週時程等の工夫

○ 教育課程外の教育活動の重点化

- ・平日の運動部活動の計画に当たっては、部活動を実施する日としない日を設けるなど、同一週内における教育課程外の教育活動の重点化を図るとともに、「部活動の日」として設定した曜日の日課を工夫するなどして、ある程度まとまった活動時間を確保できるようにする。

3 管 理

成長期にある生徒のスポーツ障害や事故を防止するとともに、生徒が多様なものに目を向け、学習にも集中して取り組めるようにするなど、バランスのとれた心身の成長、学校生活を送ることができるようにする。

また、顧問となる教員の負担軽減にも配慮する。

(1) 活動時間や休養日等、適切な活動基準の設定

○ 活動時間

<平 日>

- ・始業時刻前に活動を行う場合は、成長期に欠かせない十分な睡眠時間の保障、朝食喫食ができるよう、生徒の自主的な練習を含め、開始時刻を午前7時30分以降とする。
- ・放課後の活動終了時刻は、各学校が生徒の下校時の安全確保ができるよう、日没時刻を考慮して学校が設定する。
- ・1日の活動時間は、長くとも2時間程度とする。

<休 日>

- ・ 1日の活動時間は半日以内（3時間程度）とし、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行うとともに、対外試合等もできる限り終日に渡らないよう配慮する。
- ・ 部活動の指導業務に当たる時間は、原則一か月に15時間程度とする。
（ただし、大会等を除く）。

○ 休 養 日

<平 日>

- ・ 5日間のうち1日以上 of 休養日を設ける。

<休 日>

- ・ 休日に部活動を行う場合は、生徒の家庭や地域における活動を保障するよう、土曜日・日曜日のいずれかを休養日とする（第3日曜日の「家庭の日」は原則として休養日とする）。
- ・ 大会や対外試合等で休日に連続して活動する場合は、翌日に休養日を設ける。

○ 大会及び対外試合等への参加

- ・ 生徒への配慮とともに、保護者の負担も考慮し、年間を通して参加する大会や対外試合を精選し、計画的に参加する。
- ・ 年末年始やお盆期間等は、生徒の家庭や地域の行事等への参加を保障するよう、活動日を設けない。

○ 長期休業中の活動

- ・ 学期中の活動基準を踏まえ、各学校が、無理のない活動日を設定する。
- ・ 生徒が十分な休養をとることができるとともに、運動部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設ける。

○ 顧問となる教員の休養日

- ・ 休日のどちらか1日を含め、1週間のうち2日間は必ず休養日を設ける。

(2) スポーツ障害の未然防止を含めた健康管理と事故防止

○ 生徒の健康管理

- ・ 顧問は、保健調査票や運動器検診等の健康診断の結果、保護者からの情報提供により、個々の生徒の既往症等の健康状態を事前に把握するとともに、活動中に声を掛け、生徒の反応を見て、疲労状況や精神状況を把握しながら指導する。
- ・ 顧問は、計画的な活動により、各生徒の発達段階、体力、習得状況等を把握し、無理のない練習となるよう留意する。

○ 事故の未然防止

- ・ 校長は、けがや事故を未然に防止し、安全な運動部活動を実現するため、全ての顧問が通信

機器を用いた救急機関等への連絡の手順と方法等、救急救命法やAED（自動体外式除細動器）の適切な使用方法について十分理解し、緊急時に適切に対応できるよう、学校全体としての安全管理体制を整備する。

- ・顧問は、施設設備、用具等の定期的な安全確認を行うとともに、生徒の活動状況を常に確認し、けがや事故防止のための安全管理に努める。
- ・顧問は、生徒自身が、安全に関する知識や技能について、保健体育等の授業で習得した内容を活用、発展させたり、新たに身に付けさせたりして、積極的に自分や他人の安全を確保することができるよう指導する。
- ・対外試合等における移動については、原則、公共交通機関を使用する。

4 指導体制

生徒の自主的、自発的な活動の場の充実に向けて、運動部活動、保護者等が運営するクラブの役割を明確にした上で、必要に応じた連携を図り、学校や地域の実態に応じた適切な指導体制を整備する。

(1) 部活動指導員及び外部指導者の活用の工夫

○ 部活動指導員及び外部指導者の活用

- ・部活動指導員を配置する場合には、市町村教育委員会が地方公務員である非常勤職員として任用し、学校長の指揮命令下で勤務することが必要である。
- ・外部指導者を各運動部活動に活用する場合には、市町村教育委員会、若しくは校長が、年度ごとに委嘱を行う。
- ・外部指導者の委嘱をする場合には、学校の指導目標及び方針、各部の活動目標及び方針、指導計画、具体的な指導内容や方法、生徒の状況、事故が発生した場合の対応等について、校長、顧問と外部指導者との間で十分な調整を行い、外部指導者の理解を得るとともに、相互に情報を共有する。

<外部指導者との共通理解の場>

- ・学校（校長、各顧問等）、各部保護者代表、全外部指導者による「三者代表者会」
- ・各部ごとの顧問、全保護者、外部指導者による「三者連携会議」

(2) 部活動と保護者等が運営するクラブ・総合型地域スポーツクラブの役割

○ 部活動の役割

- ・運動部活動は、各学校の教育課程での取組と相まって、学校教育が目指す生きる力を育成し、豊かな学校生活を実現させる役割を果たすものである。
- ・1.（1）「教育活動の一環としての位置付け」（再掲）
- ・1.（2）「生徒が自立して取り組む力を育成するための指導の充実」（再掲）

- ・ 1. (3)「地域の特色を生かした学校、家庭、地域の役割と連携」(再掲)
- ・ 一部の生徒を対象とした、より高い水準の技能や記録に挑戦するなど、競技力の向上や選手の育成・強化については、スポーツ関係団体が行う事業等に参加して行うようにする。

○ 保護者等が運営するクラブの役割

- ・ 保護者会や地域の専門的な技術指導を有する社会人指導者³によって運営・指導がなされる活動は、学校管理下外の社会活動(以下、「クラブ活動」という。)である。
- ・ 校長及び顧問は、保護者会及び社会人指導者に対して、学校が運営・指導する部活動の役割を丁寧に説明し理解を得た上で、クラブ活動の位置付けや役割を明確にした活動が行われるよう配慮し、必要に応じて連携を図る。

(3) 体罰の根絶等、指導者の資質向上

○ 運動部活動に関わる指導者の資質向上

- ・ 校長、顧問、外部指導者は、いかなる理由があっても、運動部活動での指導で体罰等を正当化することは誤りであり、決して許されないものであるとの認識をもち、体罰等のない指導に徹する。
- ・ 校長は、体罰等を行った顧問に対しては、校長が必要と認める一定の期間、当該運動部活動の指導を中止するとともに、他の運動部活動への指導にも当たさせない。
- ・ 外部指導者が体罰等を行った場合には、市町村教育委員会または校長は、その委嘱を解き、運動部活動への指導に当たさせない。
- ・ 顧問及び外部指導者は、当該運動種目の技術的な指導とともに、生徒の発達の段階や成長による変化、心理、生理、栄養、休養等に関する幅広い知識や技能を継続的に習得し、多様な面での指導力を身に付け、向上させる。

○ 指導者の資質向上を図るための研修会等の参加

- ・ 校長は、顧問が県教育委員会が開催する指導者の資質向上を図るための講習会等に積極的に参加できるよう配慮する。

(4) 指導経験の浅い顧問に対する指導技術の向上

○ 指導経験の浅い顧問の指導技術の向上

- ・ 顧問は、担当教科等や生徒指導上の指導内容や方法の研究と同様に、運動部活動での指導内容や方法等についても、学校内や地域における顧問同士で共同して研究したり、研究成果を情報共有したりして指導技術の向上に努める。

○ 指導経験の浅い顧問の指導技術の向上を図るための講習会等の参加

- ・ 校長は、指導経験の少ない顧問が県教育委員会の開催する指導技術の向上を図るための講習

3 社会人指導者 : 当該校の教職員及び部活動指導員以外で、保護者会等が委嘱している指導者

会等に積極的に参加できるよう配慮する。

5 配慮事項

基本方針に基づく運動部活動の運営・管理、指導体制の整備に当たって配慮すべき事項

(1) 運動部活動への参加

○ 運動部活動への参加の在り方

- ・運動部活動への参加については、生徒一人一人の意思を大切にすることが必要であり、自主的・自発的な参加を原則とし、部活動への参加が強制にならないようにする。
- ・校長は、生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるスポーツの意義や運動部活動の教育的効果から、学校や地域のスポーツ環境等の実情に応じて、生徒全員への参加を勧めるに当たっては、個々の生徒の家庭や地域における活動が優先されるよう十分配慮する。
- ・各部の顧問は、所属する第3学年の生徒の岐阜県及び各郡市中学校体育連盟（以下、「中体連」という。）が主催する「中学校総合体育大会」への登録・出場等に配慮するなど、どの生徒も自らの意思で運動種目を選択し、中学校3年間を通して継続的に取り組んだ成果が確認でき、達成感や充実感がもてる機会・場の設定に努める。

(2) 関係機関・団体等との連携

○ 岐阜県中学校体育連盟との連携

① 複数校合同部活動の促進

- ・2. (3) 「複数校合同部活動の促進」（再掲）
- ・県教育委員会は、「複数校合同チーム」の規定について、大会参加のための救済措置ではなく、学校や地域の特色を生かした「複数校合同部活動」の設置が促進されるよう、中体連と早期実現を目指した連携を図る。

② 岐阜県中学校総合体育大会への参加

- ・校長は、運動部を設置していない中体連加盟種目について、学校管理下外のスポーツ関係団体等で活動している生徒が、中体連主催大会への参加を希望する場合は、一時的に部を設置し、顧問が監督として大会に参加できるよう配慮する。

(3) 適切な会計管理

○ 部費等の徴収

- ・中学校は、保護者が負担する部費等の経費について、保護者会等において目的や用途等を明確に示し、理解を得て徴収する。

○ 部費等の管理

- ・部費等の保管方法は、口座管理とし、できる限り現金を取り扱わない。
- ・会計処理は、保護者会が行うものとし、執行や会計について保護者会で承認を得る。

○ 物品等の購入にかかる業者の選定

- ・物品購入に関しては、保護者会等で業者の選定を公正に行うとともに、選定の経過を明確にする。また、価格についても保護者に過重な負担とならないよう留意する。